

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p style="text-align: center;">人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校</p> <p style="text-align: center;">強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校 2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校 3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習指導要領を踏まえた教育課程の編制と授業の充実を図る。 (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)としての学力向上に係る内容の充実を図る。 (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。 イ 国公立大学志望 90%という生徒の希望進路の実現を支援する。 ※国公立進学率を 80%以上に引き上げるとともに全体の目標進学率の向上を図る。 2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習と部活動・自治会活動・学校行事を両立させうる生徒を育成する。 ※1年次部活動加入率 90%以上の維持を図る。・・・オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。 (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。 (3) 英語コミュニケーション能力の育成 <ol style="list-style-type: none"> ア 授業、補習、講習に加え、海外研修や国際交流において実践的英語力の向上を図る。 (4) グローバル化対応・ICT化対応の推進 <ol style="list-style-type: none"> ア 授業におけるICT化・国際理解教育を推進する。 (5) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。 3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際交流事業の充実と発展を図る 4. 地域・関係諸機関との連携が充実した学校 <ol style="list-style-type: none"> (1) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。 ※平成 28 年度までに、すべての教職員・生徒が何らかの地域・関係諸機関との連携に関わる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「学力の充実と進路希望の実現」を重点目標として取組んだ。 ・課題にあげていた「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目が肯定的評価 76.4%(昨年 63.6%)、「他教科の教員と話し合う機会がある」(教職員対象)の項目の肯定的評価が 74.1%(昨年 69.6%)であり、大きく成果をあげた。 ・一方で、「学習意欲の高い生徒に対する組織的な指導」(教職員)の肯定的評価が 87.3%(昨年 92.7%)で若干ポイントを下げている。「到達度の低い生徒に対する組織的指導」にやや重点を置いたことが影響していると思われる。また、「先生方は分かりやすく、興味深い授業をしている」(生徒対象)の肯定的評価が 89.1%(昨年 88.8)であり、概ね昨年どおりの高評価と判断できる。</p> <p>【生徒指導等】 ・「総合的にみて、学校は生徒の学力向上、人間的成長のために尽力していると言える」(生徒対象)の肯定的評価は 90.0(昨年 90.9%)、平成 24 年度から課題としていた「命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒対象)の肯定的評価は 79.9%(昨年 83.0%、24 年度 53.6%)であり、昨年よりはポイントを若干下げているため、引き続いて様々な行事や研修の工夫、日常の指導により、豊かな人間性の涵養に努める。</p> <p>【学校運営】 ・「学校運営に教職員の意見が反映されている」(教職員)の肯定的評価は 98.1%(昨年 92.7%)であり、他の2項目も 90%を超える。次年度も継続して、学校全体で学校目標に取り組む。</p>	<p>第1回(平成 27 年7月8日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ GLHS 評価審議会の評価を踏まえて、グローバル人材の育成、特に TOEFL への取り組みについて、できる限り幅広い生徒が参加できる仕組みを構築すべき。学習意欲を大切にしつつ、海外研修、国際交流などをうまく活用しながら、学校全体として充実するよう期待する。 [TOEFL 仕様の英語教育は当初 40 人限定で行う予定であったが、再検討する。また、4つの海外研修は、その目的や趣旨を明確にし、授業等と連携しながら実施したいと回答] <p>第2回(平成 27 年 11 月 25 日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートの結果と授業見学を総合的に分析することが必要である。生徒は教員を選べないので、教員の教科指導力を一定レベルで維持してほしい。 [授業アンケート結果を踏まえ、授業見学後に教員一人ひとりに指導助言している。また、各教科において生徒評価の高い教員の研究授業を実施している。特に経験の少ない教員には効果をあげていると回答] ○ 7月に公表した「アドミッションポリシー」や「育てたい人物像」については、進学重視ではなく、社会貢献に力点を置いている点で高く評価している。今回の入試改善によって、さらに大手前のめざす人材育成が進むよう期待している。 [今後とも情報発信し、中学校、高校、大学と教育を円滑に接続しながら、将来のリーダー育成をめざしたいと回答] <p>第3回(平成 28 年2月3日実施)・・・自治会生徒2名がオブザーバー参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会活動は活発でよい。生徒みんながボランティア体験活動などにも参加してほしい。 [次年度は、部活動単位を中心にした社会貢献活動を行っていききたいと回答]

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の更なる工夫と改善を進める。</p> <p>イ 生徒の自学自習力の育成に努める。</p>	<p>ア・教師力の向上を図る。</p> <p>① 日常的な授業見学や研究事業の実施、授業内容・技術等検討会による教員の授業力の向上を図る</p> <p>※授業アンケートの実施[7月・12月]とその分析及び課題解決</p> <p>② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や制度の改善、補習・講習の充実に努める。</p> <p>③ 校内教職員研修の充実</p> <p>※経験の少ない教員に対する研修</p> <p>1. 経験豊かな教員による個別研修[年間のべ15回以上]</p> <p>2. 定時制教員との合同研修[年間3回]</p> <p>3. 他校教員との合同研修[年間3回]</p> <p>※進路指導に係る研修の開催</p> <p>④ 校外・海外研修への参加増進</p> <p>※教職員の65%が海外研修に参加した経験を持つ。(マレーシア・シンガポール・アメリカ・イギリス・韓国等)</p> <p>イ・SSH事業の推進とコアSSH校としての取組みの充実を図る</p> <p>① 「サイエンス探究」(2年後期から3年前期・文理学科)の充実</p> <p>② 全国規模の数学発表大会(マスフェスタ・8月)・中学生対象数学講座実施を含めた取組みの充実</p> <p>③ グローバルリーダーズハイスクールとしての取組みの充実を図る。</p> <p>※各種研修、2年サマースクール(7月)、1・2年集中セミナー(12月)の実施と学生科学賞や科学オリンピック等への参加を推進する。</p>	<p>・授業アンケートによる肯定的評価 83%以上</p> <p>(H26年度は、2回平均 83%)</p> <p>・学校教育自己診断での教職員・生徒の肯定的評価 75%以上及び実施内容</p> <p>(H26年度は、63.6%)</p> <p>・実施回数の達成度とアンケートによる充実度</p> <p>(H26年度は、個別研修 11回・合同研修3回実施、進路研修は 30回実施したそれらを上回ることが目標)</p> <p>・参加割合の達成度 65%に</p> <p>(H26年度は 60%が参加経験)</p> <p>・達成度(実施回数も含む)各種アンケートでの肯定的評価 70%以上</p>	<p>ア・授業アンケートでは、教員[教諭・常勤講師・非常勤講師]の授業指導について、全教科教員平均で、7月実施は 82.3%(非常勤講師を除けば、83.5%)、12月実施は 84.3%(非常勤講師を除けば、85.9%)の肯定的評価を得た。次年度も更なる向上を図りたい。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目は肯定的評価 76.4%(昨年 63.6%)。各教科教員が組織的に放課後、土曜等を活用して、個に応じた指導を行い、大きく改善した。(◎)</p> <p>・経験の少ない教員に対する研修について、経験豊かな教員の指導による個別研修はのべ 10回実施、全定の合同研修は1回、他校との合同研修は3回実施した。進路指導に係る校内研修は各種 33回実施できた。次年度も継続して実施したい。(○)</p> <p>・学校行事等に係る海外研修へは、本年度は 10名が参加した。過去 5年間でのべ 73名が研修を体験し、所属教員の63%が参加し、資質向上につながった。(○)</p> <p>イ・本年度も様々な事業を展開し、いずれも大きな成果を得た。①の「サイエンス探究」発表会(7月)においては、49本の研究発表があり、大きな成果をあげた。②の「マスフェスタ」(8月)では、全国 46校 600名が参加し、参加者アンケートでは肯定的評価がほぼ 100%であった。次年度も継続してさらに充実させたい。中学生対象の出前授業を実施した。また 12月にはマスキャンプを行い 17校 34名の中学生が数学講座に参加した。③全国 SSH 生徒研究発表会で奨励賞を受賞、また学生科学賞は最優秀賞(大阪府教育委員会賞)を受賞した。(◎)</p>
2 豊かな人間性を涵養する学校	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 授業、学校行事、自治会活動、部活動、国際交流事業や、関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに、生き方やあり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成する。</p>	<p>ア 規範意識の醸成</p> <p>① あいさつの励行と服装指導</p> <p>② 遅刻指導の充実</p> <p>年間 2,000 回以内目標</p> <p>③ あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「命の尊さや社会のルールについて学ぶ」機会を増やす。</p> <p>④ 教育相談体制の充実と学校独自のスクールカウンセラーの配置の継続(年間 12 回)</p>	<p>・達成度・保護者、外部からの評価</p> <p>・2,000 回以内の達成</p> <p>(H26年度は 2,613 件)</p> <p>・達成度、内容の充実、学校教育自己診断での肯定的評価が 82%を超える</p> <p>(平成 26 年度 82%)</p> <p>・配置の継続と回数・内容の充実度、アンケート</p>	<p>ア・学校教育自己診断「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(保護者対象)における肯定的評価は本年も同様レベルの 91.9%(27 年度 92.3%)を維持した。あいさつ励行・服装についても改善された。(○)</p> <p>・遅刻指導は、昨年度より微減に留まり、年間目標の 2,000 件には届かなかった。(27 年度 2,548 件) 次年度は、年間 2,000 回以内をめざして、さらなる改善をめざしたい(△)</p> <p>・学校教育自己診断「生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(教職員対象)の肯定的評価は 94.4%で昨年より 3.5 ポイントアップした。「人権尊重の大切さについて学ぶ機会がある」(生徒対象)は 82.7%で昨年より 0.5 ポイントアップした。(◎)</p> <p>・スクールカウンセラー配置も継続され、生徒・保護者等対象年間 69 件の相談があり、適切に対応した。(○)</p>
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校	<p>(3) 国際理解教育の推進</p> <p>ア グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成するとともに、幅広い教養と英語力を身につけ、問題発見・解決に向けて主体的に取り組む、使命感を持ってリーダーとしてグローバルに貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア 国際交流の推進</p> <p>① 英国ペンブライズ高校との交流・来日高校生との交流、本校生徒の海外研修の充実を図る。</p> <p>※マレーシア・シンガポール等に加えてアメリカへの研修も実施</p> <p>② イングリッシュキャンプ(3月)[大阪大学在籍留学生との交流等]の開催</p> <p>③ 1・2年生対象の集中セミナー(12月)における国際関係機関との連携の充実</p> <p>④ 「高校生国際科学会議」(中国・韓国・タイ・日本)の開催</p>	<p>・達成度、内容の充実、アンケート</p> <p>・実施の有無と内容の充実度(アンケート等)</p> <p>・国際理解教育関連講座の7講座以上の開講(全 70 講座中)、内容の充実度</p> <p>・達成度[十分な準備・実施ができたかどうか](アンケート等)</p> <p>・実施の有無と内容の充実度</p>	<p>ア・海外研修はマレーシアサイエンス研修(61名)、シンガポール語学研修(70名)、アメリカリーダーシップ研修(7名)、英国(ペンブライズ校)交流研修(10名)の4つのプログラム(合計 148名)の主目的を明確にして実施。また、イングリッシュキャンプは、生徒 40名とネイティブ 12名が参加して研修を行った。すべてのプログラムにおいて満足度はほぼ 100%。(◎)</p> <p>・集中セミナーは2日間で 75 講座を実施し、様々な機関との連携ができた。(国際活動体験学生講座や外資系企業講演を開講。国際理解教育関連講座を 7 講座開講)次年度も拡大して継続したい。(◎)</p> <p>・学校行事等における様々な場面で外部人材の活用を行った。例えば、人権学習においては、国立民族学博物館准教授、研究員・NPO法人・大学関係者等の協力を得た。(○)</p> <p>・「高校生国際科学会議」は、北京、上海、韓国、タイの4校を招いてオールイングリッシュの会議を開催。(◎)</p>